

・育成舎（フリーバーン）



通常時

ゲートの金具

除糞作業時

このゲートは牛床の幅と長さが同じになっています。除糞作業を行う時は、牛床側へ牛を寄せる事が出来るために、機械でスムーズに除糞を行うことが出来ます。通常時は下の金具を、除糞時は上のチェーンを使用してゲートを留めます。



ちょっとひと工夫

仕切りが牛床の長さに足りない場合の事例です。除糞時はポールをかけて長さを補っています。

この事例のほか、スライド式にして長さが調節できるようにしたゲートもあります。

・仕切り



左の写真は、チェーンを利用した移動式の仕切り柵です。トラックの古タイヤを土台にしてホイールに支柱を取り付け、チェーンの高さを合わせています。牛舎の柱に金具を取り付け、鎖の端を留められるようにしています。

比較的安価で、手軽に群分けすることができますし、群のサイズに合わせて空間の微調整ができます。

マンパス



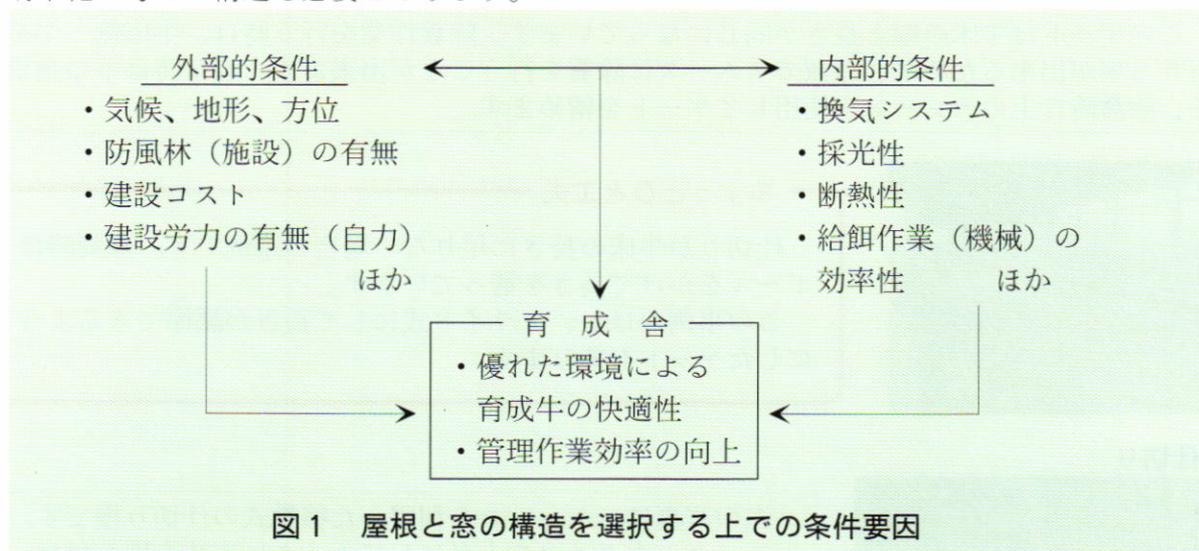
マンパスは人の出入り口です。牛を観察する時や治療・人工授精の時などに、ゲートを開けずに人が通ることが出来て、とても便利なものです。しかし、子牛は体が小さいため、マンパスから出る可能性もあります。その場合、写真のような小扉をマンパスにつけます。



屋根と窓（換気、採光）の構造

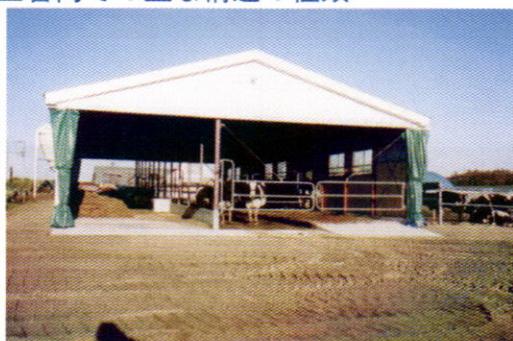
育成舎を構成している屋根と窓の構造は、気候や地形などに由来する外部的条件と、育成牛の快適性や飼養管理の効率性に由来する内部的条件などを検討した上で選択されることが重要です。

育成牛は特に、呼吸器系疾病等に犯される危険性が高いため、新鮮な空気を提供する換気システムや日光浴、舎内乾燥を促進する採光性を重視した環境を与えることが必要です。また、多頭化した場合は、給餌作業などを機械力で行えるような軒高の確保など、管理作業の効率化を考えた構造も必要となります。



屋根構造

根室管内での主な構造の種類



切妻



片流れ



セミモニター



切妻+オープンリッジ